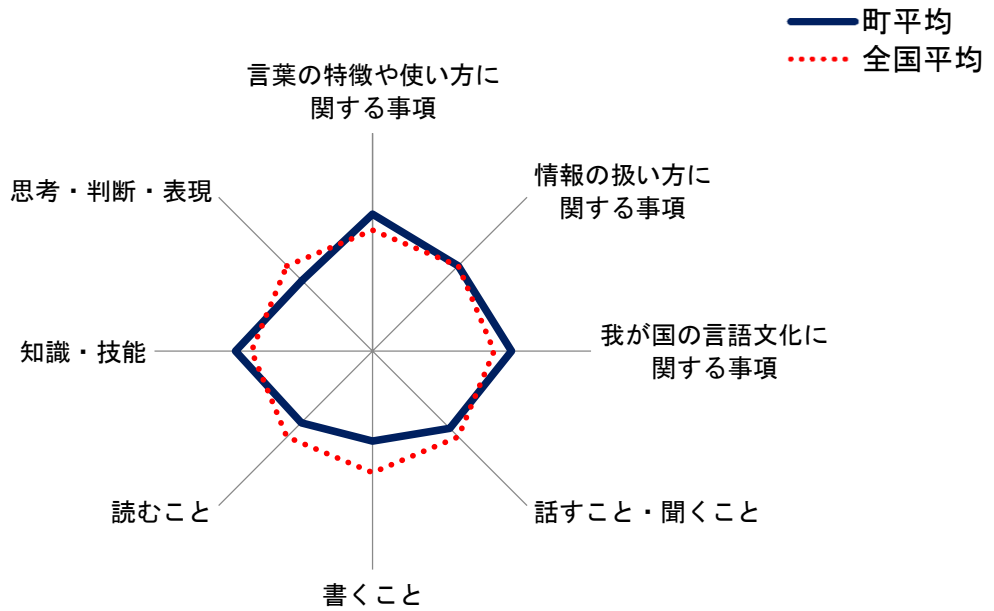
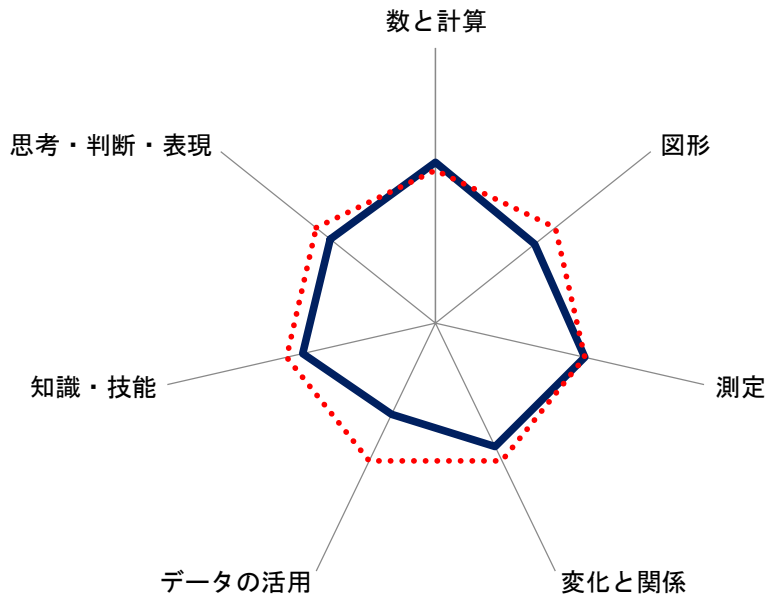


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

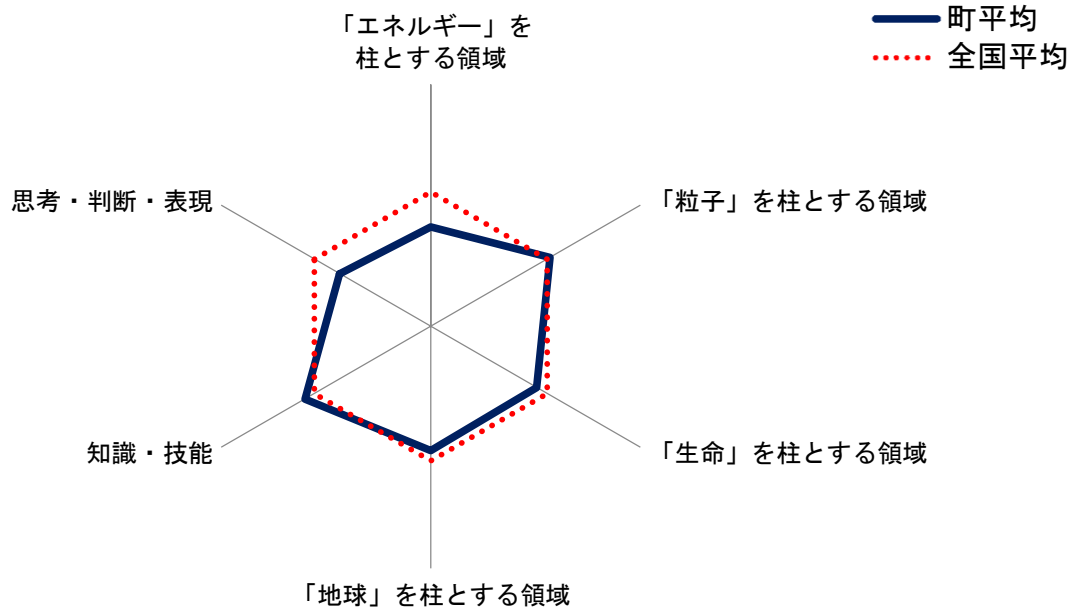


【算数】

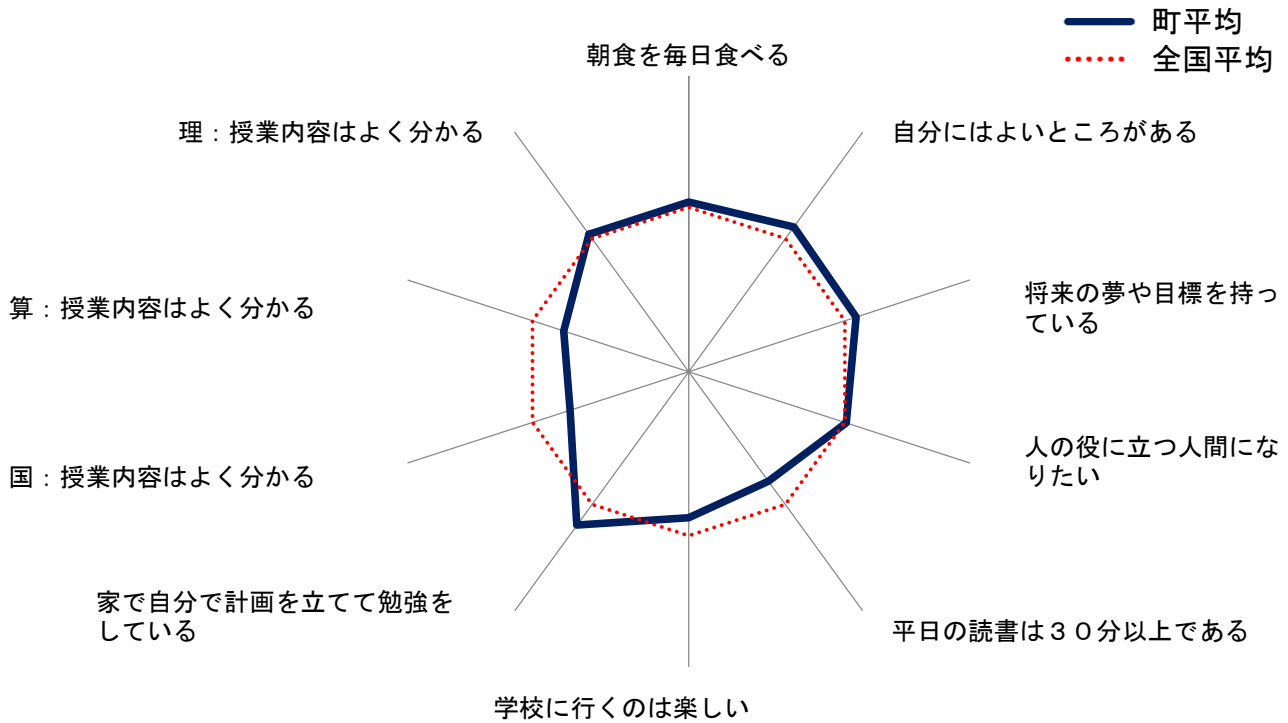


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【理科】



○ 児童質問紙調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、算数の「数と計算」、理科の「『粒子』を柱とする領域」の項目は全国平均を上回っているものの、「思考・判断・表現」の項目は、3教科とも全国平均を下回っており、学力の定着と向上に向けて、児童一人一人の課題を分析し、基礎的な知識及び技能の定着とその活用を一体的に捉えた学力の育成が、引き続き望まれる。

児童質問紙調査では、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」などの項目が全国平均を上回っている。一方、「平日の読書は30分以上である」、国語、算数の「授業内容はよく分かる」などの項目は、全国平均を下回っており、今後、読書活動の充実に向けた取組と、児童にとって「楽しい授業、分かる授業」になるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をより一層推進することが望まれる。